

福光地域 会議録

件名	福光地域提言実現検討組織による第4回会議		
日時	令和3年11月1日(月) 19時～21時10分	場 所	市役所本館3階 302会議室
出席者	検討組織メンバー:(現地参加)8名、(オンライン参加)3名、政策推進課:3名		
内容	①これまでの経緯の説明(資料1)、②企画案の発表(資料2)、③今後の進め方について、④意見交換		
概要	◆①これまでの経緯の説明(資料1、事務局からの説明) 【これまでの検討の経緯】 ・ 庁舎の統合に向けて、平成27年頃から議論をしている。 ・ 平成29年度に市議会からの「庁舎が無くなった地域の賑わいはどうするのか?」という議論を契機に、庁舎が残っても残らなくても各地域の賑わいづくりについて議論を進めてきた。 ・ 平成30年12月までの約1年間、延べ15回程、各4地域で議論していただき、その内容を提言書としてまとめていただき、市長に提出していただいている。 ・ その提言書を基に、更に議論が進められて、福光地域については長い間お休みしていた。 ・ 各地域の検討状況は次のとおり。 ＜井波地域＞ものづくりの拠点として庁舎建物を活用する、クラフトユニバーシティ構想案にまとめて、市に提案済み。賑わいづくりの方針が固まっているので、地元から提案された構想案が真に実現可能かどうかの検証を外部事業者に委託発注している。その上で、実現可能で、この後成功する、運営もしていけるという結果であれば、実際に整備に入っていく流れ。 ＜城端地域＞図書館機能や貸室機能などの公共機能に市民活動スペースを加えた複合交流施設を、庁舎の場所に整備したいとのことで、現在、改修案・新築案の比較検討調査業務を発注しており、並行して、庁舎の空いたスペース等を活用した市民主体の取組や貸室機能の実証実験を実施中。 ＜福野地域＞旧富山紡績工場跡地をどう活用するか、空き家の活用をどうするかなどを検討中。旧富山紡績工場跡地の利活用について、地域の合意形成に向けて準備を進めている段階であり、今後、地域の合意が得られれば、その構想案を市に提案し、事業化可能性の検証を外部事業者に行っていく流れ。また、福野地域の住民が中心となってローカルメディアサイト「ふくの〜と」を創設し、福野の情報を中心に毎日欠かさず発信している。 【福光地域の検討の経緯】 ・ 令和2年から福光地域の提言の実現に向けた会議が始まり、資料にあるような企画案を提案していただいたが、これらを受けたところで、コロナにより会議休止を余儀なくされた。 ・ 今年9月20日に準備会議を開いていただき、このあとどうやって進めていこうかということで話し合っていた。 ・ 今までいただいた企画案には良い内容が多いということで、それらを基にして、栗野氏、石崎氏、吉村氏でまとめていただいている。 ◆②企画案の発表(資料2、提案メンバーからの説明) ○まちづくり検討会議からの提言を第一に押さえている。いろいろなアイデアがある中で、どういうねらいで私たちは取り組んでいくのかということで、福光地域の将来、はどうしたら良いのかを考えた。 「目指す未来」…古きを活かし新しい暮らしを創るまち ・ 福光の歴史を活かして、新しい人が入ってきて活性化するようなイメージである。元々暮らしていた人たちも誇りを持って生活していける、そういったまちになると良いという思いが込められている。 「その未来にするためのプロジェクト」…小矢部川からはじめる新旧街里プロジェクト ・ 小矢部川が福光の景観や地域の住民の皆さんの心の拠り所になっているのではないかと考えて、そこにスポットを当てて、従来の商店街とは違うが、小矢部川に賑わいが戻ったら、そこから、まち中の商店街も人が流れるだろうし、また、小矢部川を拠点にして、里の人たちとの接点なども持てたら良いと考えた。 「そのためのアクション」「アクション概略」 1. アキないづくり		

- ・この会議のメンバーである石田香楠子氏が作ってくれた言葉で、「新しい商い」、「飽きない魅力的な街」、「空き家がない状態」を作ることから作られたもの。
 - ・その商いの種を作るために、現在の福光で店舗を1軒開業するのは困難だと思うので、何回かやってみる。何回かやってみるリピーターが来てお客様と仲間を獲得してもらおう。「よし、これでいつでも開店出来る」というような慣れた状態になったら、福光で開業してもらえば良いのかなと考えた。
- 1. アキないづくり a. セルフリノベーション塾**
- ・「空き家があってどうしよう」と話を聞くと、私は空き家を「素敵な宝物」だと思っている。まだ手の付けられていない、観光地化していない空き家がたくさんあって、活用していけたら楽しいだろうなと考えていた。そこで、福光地域まちづくり検討会議からの提言を踏まえて、考えたのが「セルフリノベ塾」である。
 - ・赤坂御所などの修復経験をお持ちで、井波で宮大工をされている佐々木棟梁に相談したところ、講師を引き受けてくださっているの、この方を中心に様々な建築家や工務店の方を講師にお招きしたリノベーションの塾を開催したい。
 - ・月2回のペースで全16回の開催。受講料は2万円と安価で、若い人にも参加しやすくしたい。
 - ・塾の様子はYoutubeで無料配信し、宮大工さんによるリノベーションの技術を見せつつ、「福光良いところだよ」ということもアピールしたい。
 - ・事業スキームについて、物件を3年間無料貸与してもらい、リノベーションに係る材料代はこちらが負担する形にしてはどうかと考えている。南砺市からは、講師依頼と講師謝金の支出について支援していただけたらと考えている。
 - ・塾生たちが、受講中に福光を複数回訪問することになるが、その間に、地域の人たちと情報交換したり交流の場を設けたりして、福光への魅力を感じてもらい、住みたいなと思ってもらう。
 - ・住みたい気持ちになった時に、移住や起業への支援や情報提供などを行い、移住や起業をしやすくする、という働きかけを行っていく。
 - ・これは要するに、人づくりである。商いや生業など、何かやってみたい人を育てるような事業になるのかなと思っている。
 - ・もちろん、単に移住だけでも構わない。低料金で、自分たちのリノベーションの技術を使って、移住したいという人を育てる。
 - ・平屋であれば、みんなで出来る場所は自分たちで作って、メンテナンスも自分たちでやれる、というふうになっていくと持続可能な場所になるのではないかな。
 - ・今ある物を生かして新しいことをしよう！という、創る人が集う、活気のある街になり、それに触発されて皆が生き生きとする。その人たちが集う拠点が次々にでき、情報があつまり回遊できる街となるようにしたと考えている。
- 1. アキないづくり b. 手打ちパスタカフェ**
- ・栗野氏が3年前から栽培しているイタリアントマトのサンマルツァーノトマトを始めとする南砺市の自慢のオーガニック野菜を内外に発信することが目的。セルフリノベーション塾の1棟目のシェアキッチンを使用する予定。
 - ・福光のまち中で見ると、萱笑（そば）、どんたく（うどん）、ひろまる（ラーメン）が人気店で集客があり、いずれも手打ち麺である。そこに、手打ちパスタを持ってくれば、福光が手打ち麺のまちになるのではないかなと考えた。
 - ・南砺の美味しいオーガニック野菜を使ったメニューを提供する。
 - ・そういった野菜の加工品や総菜も販売し、地域の方や市外からの来訪者に提供するようなお店にしたい。
 - ・パスタ職人の募集を、田舎に住みたい人と田舎に住んでほしい地域とをつなぐマッチングサービスサイトのSMOUTを活用して広く募集したり、口コミや情報発信したりして、出来るところから取り組みたい。
 - ・今はネットショップも盛んなので、ネットショップを利用して全国に発信出来るような拠点にしてはどうかと考えている。
 - ・当初は、シェアキッチンで手打ちパスタカフェを臨時営業しながら1~2年営業していき、いずれは独立して、どこかまち中で営業していただければと考えている。
 - ・新規参入しやすい環境づくりということで、「セルフリノベ塾」でのシェアキッチンやシェアハウスなどの活用もあるだろう。まずはモデルケースを1つ作れば、次に参入しやすいきっかけとなるだろうと思っている。
- 1. アキないづくり c. 農泊体験**
- ・メンバーの渡辺吉一氏のところには、半年で100名程度の大勢の農業体験者が訪れるそうで、まちなかで泊まれるところがあると良いそうである。日中は田舎での自然な

環境で農業を体験し、夜は町で、賑やかな飲食店や飲み屋などを利用してもらい、ちょっとした町の雰囲気も体験してもらうことで、南砺市の目指す田舎暮らしに訴求出来るのではないだろうか。

- ・そんな方が利用出来るゲストハウス、シェアハウスなども、セルフリノベーション塾の塾生などと一緒に小矢部川沿いの空き店舗などをセルフリノベーションしていけたら良いのではと考えた。
- ・農業体験メニューは、現在も豊富にあるので、それらをもっと発信していったって、1週間、1か月間なりと滞在していただけるような、外部からの体験希望者を増やしていけたらなと考えている。

2. 小矢部川にぎわいづくり a. 川沿いでの環境整備

- ・現状をより良く整備する。現時点で見て、桜が歯抜けになっている箇所には植樹する。花壇やベンチの整備。公衆用トイレの増設ほか。

2. 小矢部川にぎわいづくり b. 河原でのマルシェ開催

- ・環境整備をすると同時に、そこでイベントを行い、人同士の交流が増やすことがねらい。
- ・渡辺氏から農業を学んでいる松本千尋氏は、地球環境や食をテーマとしたイベント「種まきキャラバン」を各所で開催していて、様々な方とのつながりを持って、自分たちの取り組みを広げているそう。小矢部川を利用して、そういったテーマを持ったイベントを開催してもらおう。
- ・セルフリノベーション塾の塾生や農泊の参加者にも参加してもらい、新たな福光の魅力として、そこからのつながりづくりを目指す。

2. 小矢部川にぎわいづくり c. 川沿いの空き家の有効活用

- ・メンバーの中山明美氏が取り組んでいる内容にも重なってくるのだが、まかない食堂とか、宿泊や仕事出来るワークスペースとか、今、南砺市が観光のツールの1つに挙げている「なんチャリ」の拠点にするだとか、今使われていない川沿いの空き家をそういったふうに活用していくと、川沿いに人の流れが出来て、それがまちなかへの波及も期待される。
- ・活用する空き家はリノベーションがベースになっていて、セルフリノベーションで自信を付けた人たちが、空き家を利用して活用していただけたらと切に思っている。

3. 情報の集約と発信 a. たまり場

- ・具体的な取り組みのイメージはないのだが、コミュニティカフェのように、開放された、人が気軽に入ってくる、そしてお茶が飲める、そこで地域の情報を仕入れることが出来る、といった場所を創設してはどうか。市外の方も地域の方も利用出来る場所である。
- ・長野県の下諏訪町に「マस्याゲストハウス (Masuya Guesthouse)」というのがあるそうで、そこをイメージしている。

3. 情報の集約と発信 b. なんと新聞福光版

- ・かわら版みたいなもので、もしこのプロジェクトが進んだら、小矢部川ではこういうことをやっているとか、まち中でこういうことをやっているとか、プロジェクトの内容を地域の方に発信し、地域の方にも知っていただいて、興味関心を持っていただくようなことを考えている。
- ・地域の方からもいろいろな情報を得られるようなきっかけにしたいと考えている。

「スケジュール」

(資料2「スケジュール」参照)

◆②-1 意見交換と質疑応答 (●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言)

- 別々のテーマの企画が一つのストーリーになっているところが素晴らしかった。

①「セルフリノベ塾」では、お金の調達をどうするのか？

②このプロジェクトの終盤では、伝統文化が常駐小屋で見られるというのは難しいかもしれないが、福光の伝統文化・芸能が、毎日ではなくても、例えば、日を決めて定期的に観覧出来れば良いと思った。

- 先日、小矢部川の千本桜のグループの発会式に出席したが、小矢部川を中心に、福光地域を活性化したいという思いがあるそう。まずは、現在植えられている桜723本を1,000本に増やすというもので、それに併せて、小矢部川の河川敷に花壇を整備したり、年間を通じてきれいな河川敷整備を行ったりするという内容だった。考え方の方向性は同じなのだから、他方での取り組みを無視するのではなく、時々はこのグループとも連携しながら、お互いに良いところは取り合って相乗効果で活動していければ良いと思い

ながら聞いていた。

- 「セルフリノベ塾」の物件について、その不動産の所得はどのようにするのか？ どのようなふうにして動いていくのが疑問だった。
- 使っていないからということで、家賃は無料で貸してくれる物件で、取り敢えず3年間は好きに使っても良い、改装しても良いと言われている。それを借りるというイメージである。3年経った後、もしかして、改めてそこを利用したいという人が買うかもしれないし、買わないかもしれないし、その辺はまだ見通しが無い。でも、無料で好きにしても良いよという物件にちょうど出会えたので、まず、その物件を活用することが手取り早いのかなと思っている。
- 手打ちパスタのお店をさしたいそうだが、個人の起業の話でもあるように感じた。まちづくり全体との関連性が薄いように感じた。
- 正直なところ、自分の栽培したトマトをもちろん販売したいが、パスタ店が出来たからと言って、飲食店1店舗に卸す量はそんなに多くないと思う。私としては、南砺の食材をもっとアピールしたいという思いが一番強い。里の魅力を発信したいと思っている。個人店舗のイメージが強くなりがちだが、別にパスタに拘っている訳ではなく、そういうお店があったら良いなという話。ただ、具体的なお店を提示出来たら皆さんもイメージしやすいだろうと思い、パスタ店を選んだ。
- 要は、南砺の野菜を売るツールとしてのパスタ店だろうか。
- そういうことになるだろうか。私がそのパスタ店をやる訳ではなく、職人さんに来てもらって、その方にそこのお店を運営してもらおう。要は、井波地域の新規開店されたパン屋のベーカーズハウスクボタをイメージしてもらおうと良いかと。そこは、SMOUTで探していて、サイトに投稿してから2週間で決まったはず。
- 道の駅福光は非常に流行っているが、そことは違う、農家さんも多いし、南砺市内や福光地域で野菜栽培をされている農家さんの情報発信の場になっていけば良いのかなと。その辺は農家さん同士の横のつながりを広げていって、まちななか小矢部川に近い所にそういう場が1つ出来ると、地域の方も喜ぶだろうと思った。
- 小矢部川のことについては、たまたま、私も参画している「ふくみつつ」の活動の中から、今年の春から小矢部川の清掃活動を行っている。北島氏から紹介のあった、千本桜のメンバーやこの会議のメンバー、「ふくみつつ」も一緒になって小矢部川的环境整備につなげていけば良いと思っている。また、南砺産材の活用を促進している「なんと木くぱりプロジェクト」などとの関係もあると、森からまちに繋がって、そして海に繋がっていくという流れみたいなものも、一緒に加わってまちづくりに生かしていけるのかなと思っている。
- ①リノベーションが100万から150万円で出来るのかどうか疑問。もし、相当古い住宅であれば、水回りには結構費用がかかると思う。
- ②小矢部川の桜の話だが、桜の見た目は美しいだが、その近くに住んでいる人や畑をされている人からは虫が付いて困るそう。誰かが責任を持って桜の木の管理をしてほしいとのご意見もあり、管理出来ないのなら切ってしまうくらいとの話も聞くので、桜の木を植えっぱなしにするのではなく管理出来るような体制も整えていかないと、皆さんの理解は得るのは難しいのかなと。
- ③シェアキッチンについて、手打ちパスタ店は週3回程度営業されるとのことだったが、それ以外の時は誰かに貸されることはあるのか？
- 空いている時は別の方に借りてもらうことを想定している。1~2年目は、手打ちパスタ店が営業する想定。週3回営業されて、それ以外の日は別の方に使っていただく。もし手打ちパスタ店の営業日に別の方が使いたいということであればコラボしてもらって一緒に営業することもあるかと思う。
- 拠点をどうするのか。小矢部川河川敷という着目点は良いのかなと。私がリターンしてきた12年前には、小矢部川の河川敷が寂しいことになっていた。商店街も近接しているので、商店街も桜を利用するべきと思っていた。協力出来ることは協力したい。作ったが、どうやって管理するのか？ 今後何かを計画するときには、管理の面も計画に組み込むべき。荒木町や角田町側に軒を連ねていた飲食店が少なくなって寂しい。小矢部川の清掃ボランティアは、各会が小さく行っているのでも、何か一堂に会するようなことが出来ると良いのだろうか。福光人が一度に集まることが出来るとよいかと。水口幹夫氏から提案のあった、伝統文化や芸能については、福光にも太鼓、ちょんがれなどがあるので、様々な方に見てもらうのが良いと思う。素晴らしい企画であった。
- 6年ほど前から、山奥の集落の耕作放棄地で農業をしてきた。それが、想像のつかないほど人が来るようになった。不便な農業を求めてくる人の多さに、私も驚いている。都会の人たちが自然を求めて、不便でも、手探りでも、作って食べたい、経験してみたい。

私の想像をはるかに超えるくらいの人があるようになった。今は、移住よりも交流人口なのかなと感じている。ただ残念なことに、来られる方向けの安価な宿泊施設がないので、他所へ流れてしまっている。市で運営している体験ハウスは1泊1,000円だが、移住目的とかさまざまな制約がある。長期でも短期でも、雑魚寝や寝袋で寝る程度の設備で十分なので、管理する人の手間のかからないような宿泊施設がほしい、ということが農業をやりながら実感していること。せっかくなら町に泊まってほしい。町は、買い物が出て、交通の便が良い。里山へは市営バスも通っているので現場に通える。そういうのを活かせるのが良いのかなと感じている。皆さんがそれぞれに、まちづくりに対する構想をお持ちだが、今、私が直に体験しているので、その辺について、せっかく福光のまちづくりの中に加えていただきたいと言うか、その優先順位を上げてほしい。

●皆さんがそれぞれに実際になすべきこととか、自分のやりたい事を持っておられて、感染症の中で、それぞれが動きながらなんとか乗り切っておられることを、銘々の情報発信の範囲で感じていた。今ほどの話からちょっと質問したいのだが、毎回新しい方が来られるのか？それともリピートの方なのか？

●リピートの方も、新規の方もいる。本当に凄くて、困っている。嬉しい悲鳴である。

●なるほど、そうなのか。現場で活躍している人の話を聞くと、まだまだ活かせる部分はあるなど感じた。あと、小矢部川は通るたびに、きれいだなと思う。今、何もない時期でも写真を撮っている人がいるくらいで、改めてきれいなところだなと思っている。小矢部川の歴史は知らないが、何か物語があると面白いのかなと思うことがある。

ちなみに、セルフリノベーション塾の1棟目の候補の一番手はどこにあるのか？

○まちなかにあるお寺の隣家が候補になっている。

○技術を持つために実施するのはもちろんだが、気持ちも大事で、福光に住む、商いをするなどのモチベーション上げていただきたいと思っている。

●全体のプロジェクトの内容を伺って、とても素晴らしい設計だと思った。私は、この流れの中で何が出来るのかを考えた時に、例えば、桜であれば、住んでいる方の目線からも、素晴らしいものとして、町の資産として、環境も整備しながら、というのは大前提に置きつつ。私は福光の旧町部で生まれ育ち、他の自治体と比較して福光の魅力を考えた時に、小矢部川が町の真ん中を流れていて、その両岸にはたくさんの美しい桜が咲いているという景観は、福光特有の美しい景色だと思う。環境が持っている魅力の最大値を引き出せるような取り組みを、私もやりたいと思っている。今は料飲組合が中心となって、春祭りに併せて桜のライトアップをされている。私は、まだ具体的な案は持たないが、照射の仕方を工夫するなどして、桜の花だけでなく河川にも光を当てて、美しい河川を演出していけないだろうかと思案を膨らませている。先ほどの話にもあったが、夜桜を見ながら、滞在時間を伸ばしていただいて、お酒や飲食などを楽しんでいただければと思う。小矢部川河川敷公園を1つのテーマパークに見立てて、福光にお越しただいた方が少しでも滞在時間を延ばしていただけるように楽しんでいただけることを作って行けたらなと思っている。ハード面でいうと、今ある福光の素晴らしい千本桜のライトアップというものをグレードアップさせたいなという思いがある。また、私は芸術関係の事業をしている関係もあって、何回か音楽のコンサートやパフォーマンスの制作などで、国内からお客様を呼んで来れるようなものを制作するのが自分の仕事かなと思っているので、今回発表していただいたプロジェクトに、何かそういうところで自分も肉付けさせていただけたらと率直に感じた。

●実は、私は5、6年前から、空き家サポーターをやっている。昨年4月に、30代の女性が空き家を紹介してほしいと、突然私を訪ねてきた。彼女は、自宅の近所の空き家に移住された。その物件は1年空き家だったが、その家主さんから自由にリフォームしても良いとのことで、彼女の手作りで、非常にオシャレにリフォームされた。薪ストーブも入れておられる。先日、移住者のオンライン会議で、その彼女のお宅を紹介されていたが、以前の空き家が見違えるように変わっていた。台所、居間、寝室を女性らしい部屋に改装された。家主さんは、もし今の賃借人が今後引っ越していったとしても、すぐに次の賃借人が見つかるだろうし、家もそのまま使えるから、自由に使っていいよと言っているそう。正にお金を掛けていない。いつか皆さんに見ていただきたいくらい。非常にオシャレなお宅になっている。そういうことも出来るということを知っていただきたい。

●小矢部川河川敷で、例えば、福野の特産の里芋を使って芋煮会でもやったら良いよ。

○リノベーションがそんなに安価に出来るのか、という質問があったし、私も想像がつかない。説明にあった100万から150万円というのは、そのくらいだったら安いだろうという金額なのかなと。実際に、その金額でどの程度出来るのか、もう少し詰めたい。参考になる移住者の物件を見学させてもらえるのであれば、私たちもそれを見てイメージ

- を膨らますとか、どこまで出来るのかというところを勉強したいなと思う。
- セルフリノベーション塾の資金調達はどうか。
 - 例えば、1棟目のシェアキッチンであれば、どこかの団体がそのシェアキッチンを運営することになる。それは、私がやろうと思っているので、私が出金を出したいと思っている。私が全額出しても良いし、でもせっかくだから、たくさんの人に知ってもらうためにクラウドファンディングもしようかなと思っている。
 - 今回の企画案は、まだ、たたき台の段階であり、これまで出ていたアイデアを1つの形にしたいなという思いでまとめた。この企画案について、行政も前のめりにさせるためには、皆さん方の賛同と、「やるなら、こんなふうによろしく」などといったアイデアを肉付けし、プロジェクト自体を実現可能なしっかりとしたものにしていきたいと思う。なので、皆さんからも、こういうことをやってみてはどうか、こういうことに協力出来る、といったアイデアをいただきたい。他の地域に負けにくい魅力的なまちになっていけそう、という将来性を持って取り組んでいけたら良いと思っている。先ほどの皆さんのご意見から察するに、小矢部川の企画は良かったのかなと思っている。
 - 農業体験者で安価な宿泊施設がないとのことだったが、福光のまちなかにも複数の民泊施設やゲストハウスがあるが、これらの紹介はされているのだろうか？
 - もちろん紹介しているが、値段が高すぎるそう。1泊1,000円でないと利用してもらえない。市の体験ハウスが1泊1,000円だから、これと比較すると高く感じてしまう。
 - 質問のあった、パスタ店と地域との関連については、正直なところ、自分の栽培したトマトをもちろん販売したいが、パスタ店が出来たからと言って、飲食店1店舗に卸す量はそんなに多くないと思う。個人店舗のイメージが強くなりがちだが、私としては、南砺の食材をもっとアピールしたいという思いが一番強い。里の魅力を発信したいと思っている。
 - 南砺の野菜を売るツールとしてのパスタ店といったところだろうか。
 - そういうことになるだろうか。私自身がそのパスタ店をやる訳ではなく、職人さんに来てもらって、その方にそこのお店を運営してもらおう。井波地域に新規開店されたパン屋のベーカーズハウスクボタをイメージしてもらおうと良いかと。井波では、SMOUTを利用して探して、サイトに投稿してから2週間で決まったはず。
 - 道の駅福光は非常に流行っているが、農家さんも多いし、そことは違う、南砺市内や福光地域で野菜栽培をされている農家さんの情報発信の場になっていけば良いのかなと。その辺は農家さん同士の横のつながりを広げていって、まちなか小矢部川に近い所にそういう場が1つ出来ると、地域の方も喜ぶだろうと思った。
 - 別にパスタに拘っている訳ではなく、そういうお店があったら良いなという話。ただ、具体的なお店を提示した方が皆さんもイメージしやすいだろうと思い、パスタ店を選んだ。
 - 渡辺さんは空き家サポーターとのことだったが、どこかで、市内全部の空き家の情報を得られるということはあるのか？人づてで知っていくという状態なのか？
 - 私は、元JA勤務の経験を生かして、大体、どの家にどんな方が住んでいるのかを分かっているの、自分の地域だけなのだが、一人暮らしや二人暮らしの家についてはお住まいの方々が元気な時に「今後、自分が施設にでも入所したら、この家はどうか？家族と話しておいたら良いよ」との話をもち掛けている。そうすると、先ほどの話の女性の家についても、以前からその家にお住まいの方などに話しておいたので、施設に入られた直後に家族から「誰か住んでもらえる人はいないだろうか？」との相談があった。そういう動きをするように、日頃から心掛けています。なので、家がそんなに傷まない。
 - 今お話された渡辺さんの発想が、これからの空き家対策の重要なポイントだと思う。
 - 空き家になってから年数が経てば経つほど家が傷んで、改修するにも手が付けられなくなって、費用がかさむ。なので、一人暮らしや二人暮らしになる時にその家族に、そのような話をし働きかけていく。「今後一人暮らしになって、施設に入る時に、家のことをどのように考えているのか？息子さんと話をし、売りたいとか貸したいとかという話になれば、すぐに私に言われ。」と、地域の人には私からアプローチしてきた。だから、意外と使える空き家があるので、空き家を探している人にすぐ紹介出来る。
 - ◆③今後の進め方について（●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言）
 - 提案させていただきたい。このプロジェクトを考えていく中で、1つのプロジェクトとしてコーディネートして下さる人が欲しいと思った。一つ一つの企画案には主になって取り組んでもらえる方がおられそうだが、それらをトータルでつなげてくれる人を、例えば、地域おこし協力隊のような方にそういうことをお願いしたら、それぞれの企画案が生きるのではないかなと思っているのだが、皆さんどうだろうか？

- 福光地域の地域おこし協力隊については、メンバーの金 萍氏が今年の 1 月末に協力隊の任期を終えて、その後の話が進んでおらず、福光地域の協力隊が空白のままとなっている。もしこの会議でプロジェクトを固めて、地域おこし協力隊の所管の南砺で暮らしません課に提案していけたらなと思っている。
- 南砺で暮らしません課では「こういうふうにしてください」という形にはなっていないので、そこが難しいところなのかなと。どうしたら良いだろうか？南砺で暮らしません課から言われた条件が、顔の見える地域団体に週 3 回ぐらい派遣したい、というもの。
- 顔の見える団体というのは、具体的にはどういうものか。
- 基本的には、ここだと、地域づくり協議会なのかなと。
- 例えば、このプロジェクトを実施するにあたり、リノベーションや情報発信についての作業をする時に、吉村氏がフォローしやすい環境が良いのかなと思うが、吉村氏の櫻明堂が勤務先となっても良いのであれば、そんなふうに提案して、地域づくり協議会が受け皿になって、週 3 回ぐらい派遣してもらおう。他の曜日は、現地に出向いて、人とのつながりを持つようなイメージで、情報収集したり段取りしたりしていただければ良いのかなと考えている。
- 受け皿になる団体は、地域づくり協議会である必要があるのか？この提言実現検討組織も、顔の見える組織だと思うが。
- 南砺で暮らしません課が言っているのは、働く場ということだと思う。週 3 回は勤務されるということであれば、活動の拠点としての場が必要ということかと。櫻明堂であれば民間になるが、そこは南砺で暮らしません課の意向を確認させてほしい。
- この提言実現検討組織が受け皿となって、その交流センターにデスクを置いて、必要時は吉村氏の櫻明堂で仕事をする、というスタイルを南砺で暮らしません課に提案しても良いか。
- このような組織が受け皿になるのは、私の中ではイメージしていない。地域おこし協力隊は、元々はどこかの市民センターに属していた。最近は、地域づくり協議会に属しているということなのだろうか。まずは、この会議で「このプロジェクトで良いですね」と決めていただくこと。その上で、南砺で暮らしません課にはどんな条件が良いのかを確認させてほしい。
- 今後は、もう少しこのプロジェクトの肉付けと、もし、先の水口幹氏の意見で、伝統芸能のような部分についても勉強しなければならないし、森松氏も音楽とパフォーマンスのことでプロジェクトに加えて、もっとイメージを膨らませてプロジェクト自体を練り上げる。本日の皆さんの印象としては概ね良いとの感触を受けているので、もう少し煮詰める作業をして、市に提案出来れば良いかなと思っている。それでないと、地域おこし協力隊の申請は出来ない感じだろうか。
- 福光地域の中でも「こんなことは大事だよ」などと思っていただくことが大事で、個人的には良い感じにまとめられていると思った。ただ、福光地域の住民の皆さんにも認めていただかないと、「一部のメンバーで決めたないか」と言われるのはよろしくないと思うので、そういった機会を設けさせていただいた上で「これで行こう」ということであれば、上手く進められるのではないかと考えている。
- 内容としては、そこまで煮詰めなくても、現段階の内容でも良いということか？
- 随分良い感じだと思うが、もう少し詰めていただく必要があるかと。金銭的なことが気になるというか、誰がプレーヤーの中心になるのか？地域おこし協力隊が来たとしても、その後居なくなるかもしれない。そうなったら、誰がプレーヤーになっていくのかという話。後は、金銭的に行政として支援出来ること、皆さんが取り組まれること、プレーヤーが誰になるのかで変わってくるのかなと思う。不動産のことについても、取り組みれば良いとは思いますが、改修後の物件はどちらの持ち物になるのか、どういうやり方が良いのか。
- その辺も、結局はオーナーさんとの交渉になるし、プロジェクトについてある程度のゴーサインが出ないとオーナーさんとも交渉出来ないのでは、どちらが先の話になるのかというところ。
- それと、オーナーさんだけでなく、その物件の隣近所の住人にも了解を得ないと、のちのちのクレームになりかねない。まして、住宅が密接している場所なので、話し声がうるさいなどと言われる可能性もある話だと思う。
- 何となく、皆さんの思いは一緒なのかなと感じている。その中で、今までも感じていた事柄があったが誰も取り組めなかった、ということがあるのだろうと思う。では、ゴーサインが出て取り組もうとした時に、誰が中心となってやるのか。これもメンバーの負担がかなり大きくなるので、もう少し企画案を練って、若い方にも仲間に入ってもらったとか、もっと別のアイデアをお持ちの方に入ってもらったとかすると良いのかもしれ

ない。

●元々、行政の肝煎りで始めたことと認識しているので、この組織が地域おこし協力隊の受け皿にならないと言われると、ちょっと違うのではないかなと思う。アイデアを出して、ある程度内容でまとまったら、行政の方で進めましょう、ということで良いのではないかな？受け皿がないから、派遣出来ないというのはちょっと納得いかない。

→今後、行政が運営していくものであれば、そのような進め方で良いのだが。

●我々が自発的に行っていくことではなくて、元々、行政の方から「庁舎の跡地について考えて欲しい」ということだったかなと思うが。

→跡地というか、「地域の賑わいづくりをどうするか？」ということで、それは、建物を使うということもあれば、イベントをするということもあるだろう。それは誰がやるのですか？自分たちでやったとしても、今後の運営は誰がするのか、それに必要なお金はどうするのか、ということを含めて、考えていただきたいと他の地域にも言っていることである。例えば、建物を無くして何かを触る時にはいくらかお金をある程度、建物の無くそうと言っている地域にはそのように説明してきた。もしそうした時に、今後、一体誰が運営するのか、ということその地域の方にもお話している。今回の企画案は非常に良いことだと思うが、それを行政がやっても結局上手くいかない。

●こういう内容であればゴーである、という基準みたいなものはあるのか？

→そこは、地域で納得していただいた段階で、ということ。お金については市議会の承認も必要にはなるが、まずは地域で合意が得られれば、それで前には進められるかと。井波も福野も、概ね地域の合意を得て、構想案の事業化可能性調査を行っている。

○地域の合意というのは、このような会を、大勢で、一般公開するような形で行うということか？

→他の地域ではそのようにされている。

●交流センターで、地域の皆さんとか、地域づくり協議会長も当然だが、集めて、その場で、我々のプロジェクトについて説明するというイメージだろう。

→地域づくり協議会長とは限らないが、地域の住民の方に話をさせていただいて、「そのプロジェクトで良いね」という話になればそれで地域の合意を得たことになる。そうしないと、「お前たち勝手にやるとるないか」と地域の方に思われかねないので。

○この日にやりますと告知して、開催することになるのか？

→おっしゃるとおり。当然、地域づくり協議会長さん方にもお声がけさせていただいて、開催していただくことになる。

○この検討会議で、地域の皆さんに発表出来るところまで作って、そして発表させていただいて、その後に、地域おこし協力隊の相談をしていくことになるだろうか。

→地域おこし協力隊の話は、並行して調べていきたい。このプロジェクトが進むという前提で調べていくが、募集期間もあるので、すぐには採用に出来ないだろう。

●コーディネーターというのは、私たちのような年配者では務まらないから、是非ともお願いしたい。

○連携して考えてくれるような人は必要だと思う。

○SNSなどの情報発信であったり、いろいろなことにも取り組んでくれたりして欲しいなと思っている。

→地域の中で、主として携わってくださる方と地域おこし協力隊とをつなぐ役割の人も必要なのかなと。

○取り敢えず今は、この企画案の精度をいかにして上げていくか、というところだろう。

○もう1回ぐらい集まれば良いだろうか。

○一般向けにプレゼンする内容を再度、我々3人で練り上げて、再度、提言実現検討組織の会議に諮る、という流れになるだろうか。

○「この内容で地域の方々に提案したい」という形を作っていくということでよろしいだろうか。

●地域の方々というのはどんな範囲か。

→各地域づくり協議会へのお声がけはもちろんのこと、福光地域に住んでいる方々にも参加していただきたい。

○いつぐらいまでに開催しなければならない、というのはあるのか？

→いつまで、というのはない。他の地域でも、準備が出来た段階で開催されている。1回やっても、また開催してくれと言われている地域もある。

○年内は難しいだろうか。

●まちづくり検討会議の時は、2回説明会を行った。

○2回した理由とは？

●理解を得られなかったから。

○同じ内容で？
 ○1 回目の説明会から内容がかなり変わったから。
 ●それでもなかなか理解を得るのは難しかったので、年内に理解を得られるような案件ではないと思う。
 ○年内に1 回くらいは説明会を開催出来るだろうか？
 →ここの作業次第になるのかなと。
 ●その当時は、どういう人たちが対象で参加していたのか？
 →まちづくり検討会議の意見交換会には、地域づくり協議会の皆さんにもお声がけさせていただいたし、一般住民の方にもお声がけさせていただいた。
 ●どこの地域づくり協議会に声がけされたのか？
 →福光地域全ての地域づくり協議会である。まちづくり検討会議の時は平成 30 年 7 月と 10 月か 11 月の 2 回開催したが、福光地域全体に告知して、参加があったのは旧町部が多かった。地域づくり協議会の会長さん方への説明会も行ったし、一般の方向けの説明会も行った。
 ○内容を煮詰めるのに非常に時間が掛かって、発表してまた練り直しとなると、更に時間が掛かって時間がもったいないので、今回の企画案に、小矢部川のイベントとして、芋煮会や音楽イベントなどのアイデアも追加して、更に伝統芸能の拠点みたいなものももう少し具体的なイメージにして盛り込んで、それらをひっくるめた内容で提案するのはどうか？
 →どちらかというと、運営のスキームが大事かと。
 ○どういう組織がどうする、というようなところか。
 ●内容は後から何とでもなるので、まずは母体を作ってかからないと、後々続かない取り組みとなる。
 →そこが一番大事かと。誰が見ても、運営出来るの？とか、経営が成り立つの？とかという話になる。
 ○例えば、この会の名称は別として、水口幹夫氏をリーダーにして、その下には実際のアクションプレイヤーがいて、その人たちをコーディネートしてくださる地域おこし協力隊がいる、というイメージでもよいか。
 →地域おこし協力隊は、例えば事務的な補完するような、お手伝いさんのようなイメージかと。
 ○他のメンバーよりもリーダーが一生懸命にやらなければいけないとは思っていない。
 ○井波地域の「いなみ まちプロ」のような感じかと。
 →井波地域の場合は、トップに地域づくり協議会井波連合会があって、「若い人の取り組みを守るぞ」といった感じの雰囲気がある。ワーキンググループというか活動自体は、若いジソウラボのメンバーが中心となって行っている、というような形である。今後、地域の方に話を聞きに来ていただく時には、そういう形にしておいた方がいいと思う。「どうしてこの人たちがやっているの？」と経緯をいくら説明してもそんなふうに見られてしまう。出来れば、水口幹夫氏や北島氏から福光地域全体の地域づくり協議会の中で、福光地域でもこういう活動が行われているということを、内容が少し決まってきたということでお伝えいただきながら、全体で応援してもらえないか、という話をさせていただくような流れに持って行っていただけないかなと思う。
 ●どこかの段階ではそれが必要かと思っていたが、既にこの段階で必要なのだろうか？
 ○仮に、プロジェクトをやる団体を作ったとしたら、水口幹夫氏が一応、会長で、北島氏と水口芳美氏には副会長みたいな感じにしてもらって、その下にアクションプレイヤーがいる、という感じ。そういった感じで 1 つ作ってはどうかと。
 ●そういう個人名はともかくとして、福光地域全体の地域づくり協議会長の面前という場で説明していく必要はあるのかなと。
 →地域の方々に対して説明していく時には、まずは地域づくり協議会長さん方に説明した上で、という流れもあると思う。福野ではそのような流れで進めている。
 ○説明した時に、必ず「誰がするのか」ということは皆さん気になると思う。賛同していただいても「誰がやるのか？」みたいなところで、その場で「架空の団体がやります」という話をするよりも、「ここにいるメンバーが主体となって関わっていきます」という形を言えた方が良くと思うが、どうだろうか。
 →それが一番良いかと思うが、それはそれで覚悟が必要になるかと思う。
 ○現段階ではこういうつもりでいる、との説明をした方が良くだろう。
 →水口幹氏には、ぜひ、こういった活動をバックアップするような体制を作っていただければ、恐らくやりやすいのではないかなと思う。
 参加者全員）その方がやりやすい。
 →地域づくり協議会でもこういった活動を応援していますよと。

- この構想の段階で、まともに聞いてくれるとは思えない。
 - 今回の企画案をどこまで、いかに説明出来る段階まで作り上げていくか、だろうと思う。そうしないといつまでたっても同じ話にしかならないので、説明出来る段階まで作り上げて、説明して、理解をしていただけるか。まちづくり検討会議の時は随分粗い内容での説明だったが、今回の企画案は、この提言の実現に向けてかなり精度は上がっていると思う。
 - 地域づくり協議会にはどこかの段階で、いつかは話しなければならない。内容について賛否を問うのではなく、こんな感じでやっていますとの報告的な内容の話は必要。
 - 前に進めるためには、バックアップがないとやりにくいだろうと思う。お金を出してくれなどの話ではなく、活動自体を皆さんが理解した上で進めているんだよ、勝手にやっているのではなく、福光地域をいかに良くするための活動であるから、地域づくり協議会としてのバックアップをしていただきたい。福野も井波もそのような感じで進めている。
 - 反対ではなく、賛成してほしい、ということ。
 - 反対しないでほしい、ということか。
 - そういうことである。
 - 賛成、ということになれば、この企画案がもう少し進められるということだろうか。
 - そのとおり。
 - 仲間がもっと増えるかもしれないし、声が掛けやすくなるかもしれない。
 - この企画をもっと肉付けすることは出来そう。全体を通してストーリーとしては、「将来こんなことを目指している」ということで賛同をいただいて、「それに向けて具体的に取り組んでいきます」ということを賛成していただく、というような感じで良いだろうか。
 - 先ほどの渡辺氏の話にあった、ほとんどお金を掛けなくても素敵な感じでリノベーションが出来るということも、例として入れれば良いと思う。
 - 渡辺氏が紹介してくれたお宅を早く見学して、説明資料にも使わせてほしい。いくらぐらいで、こんな感じのリノベーションが出来た、とも説明出来る。
 - どんな物件を選ぶのかにもよるが、リノベーションの範囲を限定してはどうか。
 - 1棟のうち、本当に使いたい箇所だけリノベーションしたいと考えている。
 - ◆④意見交換 (●…メンバー発言、○…提案メンバー発言、→事務局発言)
 - 次回の会議はどうするか？この場で次回の日程を決めていただく。再度、3人のメンバーで企画案を練り直していただいて、企画案が出来上がったらご連絡をいただいて、次回の会議を開催するか。オンライン会議も可能。
 - 出来るだけ早い段階で、私の方で個別に水口幹夫氏や平野氏の意見を聞いて、作り上げるメンバーで煮詰めて、準備が整ったら皆さんにご連絡するような方法で良いだろうか。その間に渡辺氏ご紹介のお宅にも見学に伺いたい。
 - 先方にもお話したい。先日、移住者の Zoom 会議をやった時に、その方が自宅の内部をカメラで映して会議参加者に紹介していたが、その時の会議を録画していなかっただろうか。市の方から、なんと未来支援センターの林氏に確認してみしてほしい。もし、無かったら、私がその方に見学の依頼をするので。
 - よろしく願いしたい。
 - 来年の桜の時期は大事にしたい。
 - それを一つの目標にしたい。プレでも何でも良いから、出来るメンバーでも取り組んでいきたいね。
 - 来年の春休みに、清掃活動をしたいと思っている。春休みの子どもたちにも参加してもらえ形に出来たらと考えている。
 - ぜひやりたい。
 - 別途、日程等調整させていただいて、その上で会議開催案内も郵送したい。
- (以上)

◆次回会議
 日時…未定
 場所…未定

福光地域提言実現検討組織会議

令和3年11月1日（月）

19：00～21：00

南砺市役所302会議室

次第

1. あいさつ
2. これまでの経緯
3. 企画案の発表
4. 今後の進め方について
5. 意見交換

まちづくり検討会議からの提言の実現に向けて、これまで行われた福光地域の検討の経緯は次のとおりです。この資料1および資料2をご一読いただき、資料2の内容について11月1日の会議でご意見をお聞かせいただければ幸いです。提言の実現に向けた企画案について、福光地域提言実現検討組織会議での合意を確認しながら取り組んでいくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

■福光地域の検討の経緯

平成30年12月 福光地域まちづくり検討会議からの提言書を市に提出

【テーマ】今あるものを活かした にぎわいづくり

- ①情報の集約と発信できる居場所
- ②まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する。

令和2年1月～3月 福光地域提言実現検討組織会議開催

提言書の実現に向けて、福光地域提言実現検討組織の会議などにおいて、提出していただいた企画案は次のとおり。

提案者	タイトル（案）	提言のテーマ(方向性)との関連
中山 明美 氏	みんなの居場所	①
吉村 華子 氏	福光まちづくり塾、セルフリノベーション塾	①
平野 信一 氏	(歴史の道「殿様街道」の整備)	②
水口 幹夫 氏	小矢部川河畔景観再生プロジェクト	②
栗野 秀 氏	オーガニックカフェプロジェクト	③
渡辺 吉一 氏	交流できるまちや里山づくり	③
大森 永遠 氏	地域資源発見隊 FK3	①②③
北島 清 氏	共存共栄の策を考えよう	無
森松 宏介 氏	(アートギャラリーをオープン)	①

令和2年4月～令和3年9月 コロナ禍ということを受け、メンバーからの提案により、会議をしばらく休止

令和3年9月20日 会議再開に向けた準備会議を開催

(参加者) 栗野 秀氏、石崎雄世氏、北島 清氏、平野信一氏、水口幹夫氏、吉村華子氏
(検討概要)

- ・このまま話し合いを続けても前に進まない。
- ・これまでの会議で提案された企画案に良い内容がたくさんあったので、それらの企画案を基に、出来るものからやっていけばどうか。
- ・この提言実現検討組織は、その企画案の実施をバックアップする組織となってはどうか。
- ・栗野 秀氏、石崎雄世氏、吉村華子氏が中心となって、企画案の内容確認と取りまとめを、事前会議をとおして行なってみる。

令和3年10月4日、12日、16日 栗野氏、石崎氏、吉村氏が中心となって、事前会議を開催

- (概要)・先に提出されている企画案について、中山明美氏、吉村氏、栗野氏、渡辺氏から、それぞれ内容を再確認。また、新たに企画案として、松本千尋氏から取り組みについて話を伺った。
- ・伺った企画案等の内容を踏まえて提言の実現に向けた企画案を取りまとめ、次回の提言実現検討組織の会議での提案に向けて検討・調整

令和3年11月1日福光地域提言実現検討組織会議開催予定

福光地域まちづくり検討会議からの提言書

今あるものを活かした にぎわいづくり

- ① 情報の集約と発信できる居場所
- ② まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③ 里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

これまでの議論を踏まえて、福光地域提言実現検討組織として以下を企画し、提言の実現に向けて進めていきたいと考えています。

目指す未来

古きを活かし新しき暮らしを創るまち

めまぐるしく変化する世界で、次々と出ては実行されずに消えていくような夢や挑戦の芽を見つけ、育てる仕組みをつくる。古いものも新しいものも活かす多様で創造的な人が育ち、集まり、話し合えるまちする。

その未来にするためのプロジェクト

小矢部川からはじめる新旧街里プロジェクト

まずは空き家を自分たちで改装し、その過程で人を集める。そうやって街と里に人々が交流できる拠点をいくつか作り、新しいアクション（なりわい）を起こせる人、移住する人を増やす。特に住民の多くが想いを寄せる小矢部川周辺で、イベントをしたり、にぎわいスポットを作って、住む人や訪れる人が交流し、まちと里とのつながりを楽しめるようにする。

そのためのアクション

1. アキないづくり

- a. セルフリノベーション塾 … 創造・挑戦する人を育て、繋ぐ
- b. 手打ちパスタカフェ … オーガニック野菜を内外に発信
- c. 農泊体験 … 街と里と両方の暮らしを堪能する体験を提供

提案者 提言との関連

吉村氏	①
栗野氏	③
渡辺氏	③

2. 小矢部川

にぎわいづくり

- a. 川沿いの環境整備 … 寛げる場にして、福光のシンボルを未来へ繋ぐ
- b. 河原でのマルシェ開催 … 環境や食のイベントを行う
- c. 川沿いの空き家の有効活用 … 宿泊、キッチン、交流の場にする

水口氏	②
松本氏	③
中山 ^晴 氏	②

3. 情報の集約と発信

- a. たまり場 … 情報の集約場所をつくる
- b. なんと新聞福光版 … 市の HP、SNS や広報、回覧板等で発信

中山 ^晴 氏	①
吉村氏	①

アクション概略

1. アキないづくり 空き家をなくす、商いをつくる、飽きない魅力的な街にする

セルフリノベーション塾

創造・挑戦する人を育て、繋ぐ

- ・まちなかの空き家を 100 ～ 150 万で住める（または商いできる）ようにする技術を専門家から学べる塾の開催
- ・井波の佐々木棟梁や工務店、建築家に講師を依頼
- ・年 18 回（月 2 回）の講座開催で 1 棟完成させる
- ・移住や起業を考えている人を中心に 10 名程度募集
- ・各回 YouTube で配信、福光の PR 動画にもなる
- ・見学 1 回のみ飛び入り参加も設定し、間口を広げる
- ・塾生には、福光移住につながる情報や交流の場を設ける
- ・移住や起業への支援等、塾生の移住起業へつなげる

手打ちパスタカフェ

オーガニック野菜を内外に発信

- ・セルフリノベ塾の 1 棟目のシェアキッチンを活用して営業（週 3 回程度）
- ・1 年間で料理人を募集、育成
- ・南砺のオーガニック野菜を使った加工品や惣菜なども販売
- ・ネットショップも利用して全国に南砺の食を発信
- ・スタートから 1 ～ 2 年程で小矢部川沿いの空き家を使った新店舗で独立

農泊体験

街と里の暮らしを両方堪能する体験を提供

- ・まちなかと里の両方で福光を体験できる長期 / 短期宿泊できるゲストハウス・シェアハウスをつくる
- ・なんとのおねや半年で 100 名を超すなべちゃん農場の農泊希望者などに、日中は、福光の里で農業体験し、夜は福光のまちなかで飲食する福光ならではの暮らしを体験してもらう。夜の居酒屋で地元の人との交流も可能
- ・里のゲストハウス・シェアハウスでは目の前の畑や田んぼで体験しつつ、交流できる。まちなかのゲストハウスと連携して 1 回の体験で里と街のどちらにも滞在できるようにする
- ・農業体験メニューの発信。田植え、草刈り、稲刈り、野菜の収穫、麻織り体験、豆腐屋体験、味噌麹体験など、現在でもメニュー豊富

2. 小矢部川にぎわいづくり

福光の名所を整備活性化。住む人、訪れる人の心のよりどころとなる場を作る。賑わいをまちなかへの波及させる

川沿いの環境整備

寛げる場にして未来へつなぐ

- ・桜が歯抜けになっている天神地域に桜を植樹
- ・寛げる美しい景観にする
- ・河川公園の花壇やベンチを整備
- ・公衆トイレの増設
- ・テニスコートの修復

河原でのマルシェ開催

環境や食のイベントを行う

- ・地域の人や塾生などと協力して河川清掃をする
- ・環境や食がテーマの種まきキャラバンマーケットやマルシェ、リノベ済の家や河川敷を利用した環境や食のイベントの開催をする

川沿いの空き家の有効活用

宿泊、キッチン、交流の場にする

- ・まかない食堂として、日替わりランチや農夫漁師の料理、クッキングスクール、配食などに利用
- ・宿泊や仕事等、様々な人が気軽に入り交流できる場とする
- ・なんと里山ツーリズム「なんチャリ」の拠点にする

3. 情報の集約と発信

（3の内容については、11/1に説明させていただきます）

スケジュール

1. アキないづくり

2. 小矢部川にぎわいづくり

